

—技能と知識の構造—

○武川素子、笠井直美、大澤清二 (大妻女大)

【目的】 技能構造についてはスポーツや技能訓練の分野において様々な研究がなされている。しかし生活技能という視点から技能構造を扱った報告は少ない。本研究では特に被服分野における生活技能の技能構造を明らかにすることを目的とした。

前報までに、基本的技能である並縫い、被服分野の知識理解を取り上げ検討を行ってきた。本報では、被服製作作品について作品構成要素の技能構造、知識と技能の関係等について因子分析等の結果から検討した。

【方法】 短期大学生100名を対象に平成6年10月、平成7年2月に和服製作に関する質問紙調査を行った。また製作した子供用和服（一つ身）について平成7年3月に評価を行った。評価項目は基本的技能と和服製作技能の項目からなる。

【結果】 以下の結果が明らかになった。

- ・ 並縫い、くけ等の基本的技能項目間および作品構成要素の技能項目間において相関関係が認められた。
- ・ 各技能項目と関連する知識項目間には相関関係が認められた。
- ・ 因子分析の結果、衿付、袖付等一連の作業に結びつく技能の因子、ならびに和服製作に必要な固有技能項目の因子が抽出された。